



創立七十周年を迎えて

福島県立坂下高等学校長

松尾 幸生

霊峰磐梯、飯豊を仰望し、博士の緑水が潤すこの地は、縄文の古より高度な文化を育み、郷土繁栄への幾星霜人々の尽力は子弟教育に対する熱意を大いに高めるに至り、昭和二十四年、福島県立会津農業高等学校に通常課程普通科として設置された本校の前身は、昭和二十九年、福島県立坂下高等学校として分離独立を見たのであります。昭和二十四年四月十二日に五十五名の入学者を迎えてより、爾来七十の春秋を閲し一万一千百九十一名の俊秀が母校を巣立たれ、全国各地各界で活躍されておりますことは誠に心強く喜ばしい限りです。これもひとえに、本校設立に御尽力いただいた方々、そして教育への熱情と生徒への愛情を注いでこられた旧職員、さらに本校教育に対し御理解と御支援を賜りました保護者の皆様、同窓会並びに地域の皆様のおかげでございします。各位に対し、深甚なる敬意と感謝の意を表します。

さて、本校は会津地方西部の普通教育を担うべく設置されましたが、時代の要請と地域の気運により、規模の拡大と教育の充実が図られ、第十五回入学生（昭和三十八年度）からは募集定員が六学級三百三十名の本校最大規模となり、十四年間続きました。しかし、その後は少子化の時代が到来したことにより、第六十一回入学生（平成二十一年度）以降、二学級八十名の募集定員となり今に至っております。この趨勢の中、現在の校舎は五学級時点での建設であることより、ゆとりの出た教室を生かし、分割少人数授業を柱とした、生徒一人ひとりに目を配ったきめ細やかな教育を実践しております。これは昨今、社会が学校に求めている現代的な諸課題に対応するための資質・能力を身につけさせる教育に繋がります。旧来の、教師が与える知識をひたすらノートにとり暗記する学びではなく、「主体的・対話的で深い学び」を通して生きる力を育成する学びの方法が世界教育の流れとなっております。この点においても本校は、今後も地域の期待に十分に応えていけるものと確信しております。

この度、創立七十周年記念事業の一環として中庭の高木の剪定をさせていただきました。この学校庭園は創立三十五周年記念事業として造成されたもので、当時の写真を見ますと合わせて四本ある赤松は三メートル程度のものでしたが、三十五年の時を経て、それらの赤松は十メートルを超えようかというほどに成長しました。背丈の大きくない植木の剪定と除草は、有志の生徒及び教職員が行いました。特に、庭園の主木である五葉松は、本校がこの松の如く千古に冬夏青青たるよう強い願いを込め、一同で手入れをいたしました。

創立七十年の先に力強く歩みを進めるため、本校に益々の御理解を賜りますようお願い申し上げます。